

ボランティア



発行 (編)大阪府社会福祉協議会
大阪府ボランティア・
市民活動センター

Osaka

Vol. 39
2005 Winter

『特集』

災害ボランティアを考える



Hello! ボランティアセンター

交野市社会福祉協議会 ボランティアセンター

交野市天野が原町5丁目5-1
TEL 072-894-3737
FAX 072-894-3738

10周年を迎える、 ボランティアグループ連絡会

交野市ボランティアセンターは、交野市立保健福祉総合センターの敷地内にある2階建ての建物。独立した建物にボランティアセンターが設けられたのは、大阪府内で交野市が最初だったといえます。

交野市ボランティアグループ連絡会が発足して10年。その前身は、一般市民が昭和52年から自主的に活動してきた「ボランティア協会」です。こ



登録ボランティアの交流会

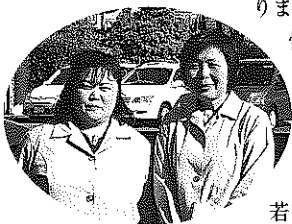
れを平成4年、交野市社協がバックアップをして、「ボランティアグループ連絡会」として発展させ、現在に至っています。平成17年2月13日には10周年記念の集いが開かれる予定で、いまは準備の真っ最中です。

「もともと自由に活動されてきた経緯があるので、どのグループも自主性が高くさまざまな活動に取り組まれています。月1回開かれる、ボランティアグループ連絡会（リーダー会）の運営などにも積極的に関わってもらい、グループ間の連携もスムーズに行われています」と、ボランティアコーディネーターの木本たつ子さんとアルバイト職員の野口明子さん。

同センターでは手話、朗読、点訳、歌体操など、19グループ合わせて約550人が活動中で、個人登録ボランティアも約70人にのぼります。

数年前からは、定年退職した男性のボランティアが増えて、外出介助、パソコン通訳、要約筆記などで活躍するようになりました。

目下の課題は、ボランティアさんの高齢化がすすんでいるため、若い世代に積極的に参加してもらうこと。若い世代に積極的に参加してもらうこと。若い世代に積極的に参加してもらうこと。



木本たつ子さん（右）と。それともうひとつは、手話、朗読と野口明子さん

が専門化した結果、イベントなどで誰でもできる簡単なボランティアを募っても集まりにくくなっている点です。「みなさん高い技能を身につけておられ、それはそれで素晴らしいことです。でも気軽にパッとできる活動と呼びかけても、あまり関心をもってもらえないのが残念。活動内容が固定化してしまわないように、みんなで協力しあっていく体制づくりをしたいものです」と、木本たつ子さんは話します。

ボランティアグループ連絡会が設立されて10年。2月13日の記念イベントには多くの市民との交流が図られ、新しい出会いが待っていることでしょう。

島本町社会福祉協議会 ボランティアセンター

三島郡島本町桜井3-4-1 島本町ふれあいセンター内
TEL 075-962-5417
FAX 075-962-6325

高齢者、子育て、パソコン。 時代のニーズに応じた活動

島本町ボランティアセンターは、昭和59年に社会福祉協議会の法人化と同時に組織化され、高齢者や障害者のサポートを中心に、地域に密着した活動を続けています。



親子でつくる絵本講座

介助、手話、朗読、点訳、給食、保育、利用者のニーズに応じた手づくり介護用品の作成といった発足当初からのボランティアに加え、最近では年々活動内容も拡大。「時代や社会の変化に呼応して、ボランティアも変わっていくのだと思います」と、同センターの宮本賢治さんは話します。

高齢者の分野では、ひとり暮らし年長者への定期的な電話訪問を平成9年から、また、給食サービス事業を、独居生活からくる孤独感と健康管理のための食生活指導から、民生委員児童委員協議会（民協）と、社協とが



ボランティアセンターの宮本賢治さん

共同で昭和52年から開始しました。その後、昭和56年に社協のボランティアセンター（当時は給食サービス運営委員会）が主体となってすすめられています。

また、ニーズの高まりをみせる子育て支援については、当初からの無償ボランティアに加え、平成12年からは（財）21世紀職業財団の保育サポーター養成講座修了生による有償活動も町内でスタートするなど、充実しつつあります。

「少子高齢化が進む中で、制度が整ってボランティアから有料サービスに移行していくのもあれば、ボランティアのまま継続していくものもあるでしょう。と同時に、新しいニーズや時代背景から新しいボランティアが生まれてもいきます」。

その一つとして、宮本さんはパソコンボランティアを例示します。同ボランティアセンターでパソコンボランティアが始まったのは平成14年。発足からまだ約2年と日は浅いのですが、パソコン活用指導から朗読ボランティアと協力してデジタル音声図書の作成に取り組むなど、その活動は活発かつ意欲的。定年退職後の男性を中心に約20名のメンバーが、積極的な活動を展開しています。

現在は個人登録のみの同センターですが、今春にはグループ登録もスタート。より充実したボランティアサポート体制に期待が寄せられます。

特集 災害ボランティアを考える

座談会

台風23号の被災地支援を振り返り、 今後の災害ボランティアセンターを考える。

参加者

東大阪市社会福祉協議会 吉岡 裕子
四條畷市社会福祉協議会 埴 正義
阪南市社会福祉協議会 猪俣 健一
大阪府社会福祉協議会 奈良 公美
大阪府社会福祉協議会 西原 弘将 (司会)



昨年の10月20日に上陸した台風23号は、各地に大きな被害をもたらしました。とりわけ甚大な被害をこうむったのが京都府の舞鶴市・宮津市と、兵庫県の豊岡市と出石町です。

近畿ブロックの社会福祉協議会は「災害時の相互支援に関する協定」に基づき、奈良県社協に「近畿ブロック府県・指定都市社協災害ボランティア本部」を設置し、すぐさま支援行動を開始。大阪市社協は舞鶴市と宮津市を中心に、大阪府社協および府内市町村社協は豊岡市と出石町を中心に職員が現地入りし、災害ボランティアセンターの運営サポートなどの活動に取り組みました。

ここでは、その活動を振り返りながら、今後に向けた災害ボランティアの課題などについて語り合いました。

コーディネーターの 専門性が求められる

西原 府社協および府内市町村社協は、円山川の決壊で甚大な被害をこうむった豊岡市と出石町に10月25日より職員を順次、現地に派遣しました。29日30日にかけては市民ボランティアを組織し、バスをチャーターして現地に赴きました。

それぞれ3日間ほどの短期間の支援活動ではあったわけですが、私を含め、いろんな経験のなかで、いざ実際に自分たちの市町村でこうした災害が発生したとき、まず何をすべきなのか、地元のボランティアにはどんな役割が期待されるのか、そして全国から駆けつけてくださる市民ボランティアを、いかにコーディネートしていくべきか：などについて様々なことを感じ、学んだのではないかと思います。そこで今日は、現地災害ボランティアセンターの運営支援を振り返りながら、これらの災害支援活動の課題などについても語り合いたいと思います。

吉岡 被害発生直後に豊岡市ではすぐさま、行政+社協+地元JC（青年会議所）+NPO等で災害ボランティアセンターが立ち上げられたわけですが、東大阪市社協は7月に発生した福井県



東大阪市社会福祉協議会
吉岡 裕子

の豪雨災害のときに事務局次長が支援に行ったこともあり、ボランティアセンターだけでなく他の部署からの職員も加わり、8人の職員が現地に行きました。10月28日からの班と11月1日からの班の二班に分けての派遣で、それぞれ短い期間でしたが、ともかく時間がアツという間に過ぎ去ったというのが正直な実感です。

土・日には全国から多くのボランティアが駆けつけられましたが、混乱した中でコーディネートのあり方を含めて、8人がそれぞれ、いろんなことを学ばせていただいた気がしています。埴 私は災害ボランティアセンターのお手伝いは初めてでしたが、いい経験をさせていただいたと思っています。最初はセンター内で被災者からの電話対応をしてましたが、たとえば細かな

地名を言われても、地元の人でないに分からない場合が多々あるんですね。被災者は電話に出る私を「地元事情に通じた人」として話されるわけですから、これではかえって、不安感を高めるだけではないかと判断しました。そこで混乱したなかで「応援部隊の自分ができることは何か」を考えて、電話には極力出ないことにしました。

どういふことかと言うと、たとえば「3日前まではクレーターの取り外しもボランティアさんをお願いできると聞いていたのに、なぜそれが急にダメになったのか?」といった苦情がありました。要は「支援できること・できないこと」や「優先順位」、また「その人に以前どう対応したのか」などについての引継ぎが完全でなく、マニュアル化ができていなかった。

そこで、センターの毎日の議事録・活動記録を作成したり、バラバラに貼ってあった電話番号メモを一つにまとめて一覧表を作ったり...といった、いわば「裏方仕事」に徹しようと考えました。誰に指示されたわけでもないんですが、自分の判断で「自分でもできる仕事」を見つけた。そのことで少しはお役に立てたのではないかと思います。

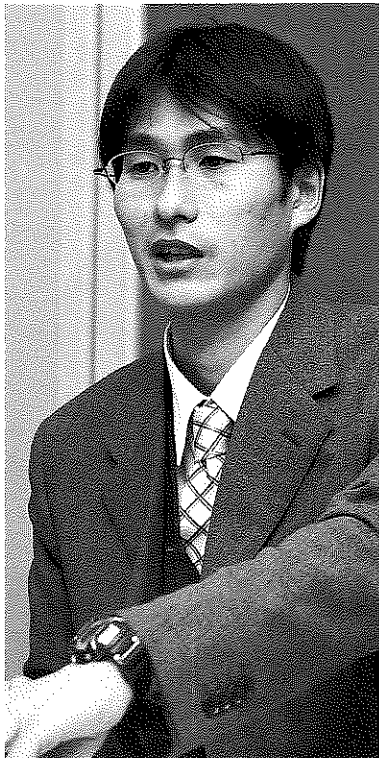
猪俣 要は災害現場では「指示待ち人間」ではダメだということですね。

西原 センターをスムーズに運営するために、コーディネーターもその専門性を活かしながら「自分で仕事をつくる」という積極さと臨機応変さは、現場では必要ですね。電話をかけてこられる人は、私たちが豊岡市社協の職員だと思って話される。ここで不適切な

対応をすると豊岡市社協にも迷惑がかかるわけで、私もうしたのか...と悩んだところです。埴さんが言われたように、「地元の人でないとできない仕事」と「応援部隊でもできる仕事」とに分けて役割を分担する...言葉にすれば当たり前のことなだけけれど、混乱した現場ではこれがなかなかスムーズにいかない。

被災地の区長さんと連携した「体制づくり」

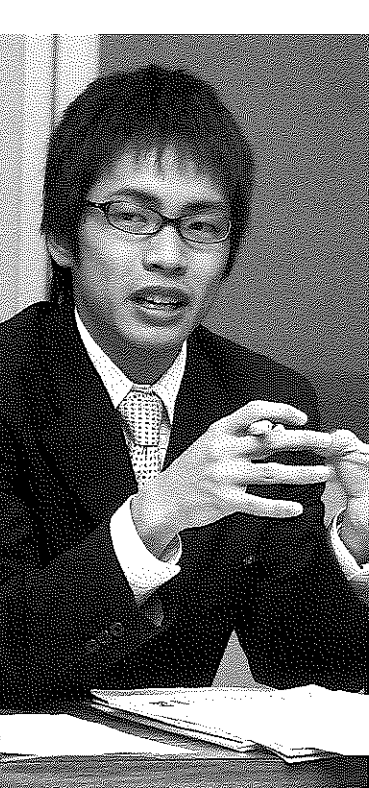
猪俣 私は10月26日〜28日までの3日間でしたが、豊岡市の隣町、出石町の水害ボランティアセンターに詰めました。出石町も豊岡市同様、大きな被害をこうむりましたが、現地に入ってから感じたのが、「体制づくり」が整っていない



四條畷市社会福祉協議会
埴 正義

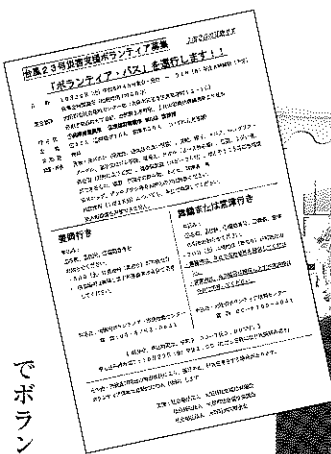
が設置されていたんですが、郡部の小さな市町村ということもあってか、住民のボランティアニーズは地域の区長さんが一手にまとめていて孤軍奮闘しておられる...という印象でした。

たとえば「うちの地区に30人回して欲しい」と区長さんからリクエストがあると、対策本部はその数を手配して、あとは現場のコーディネーターも、また区長さんにお任せする。つまり行政と区長さん主導の支援活動で、現場の個別ニーズへのきめ細かな対応が十分にはなされていないのではないかと思います。



阪南市社会福祉協議会
猪俣 健一

言い換えると、社協の専門性が十分に活かされていなかった。そんな印象も申し上げながら「体制づくり」の提



役場内の災害対策本部と一体化した形

案もさせていただき、役場内のボランティアセンター機能の強化、そしてとくに被害がひどかった地区に「ボランティアセンター現地本部」が設置されました。このことでニーズ漏れが防げ、ある程度システムチックに動ける体制が組めたのではないかと思います。

全体的な印象としては、いい意味でも悪い意味でも、出石町には「地域共同体」が残っていて、地域のリーダーである区長さんの役割がきわめて大きかった。負担を一手に引き受けておられたわけですが、しかし中には、区長さんには遠慮してしまう、という住民もいて、そこに社協が入り、全国からのボランティアがニーズ把握に加わることで、うまく回りはじめたのではないかと思います。

いろんな議論をし、ときには「よそ者は口出ししないでくれ」なんてことも言われたけれど（笑）、最終的に何人かの区長さんから「助かったよ。社協さんありがとう」とお礼を言っていた。だいたときは、本当にうれしかったですね。

西原 現場の状況把握はまず区長さんが...というのは各被災地でも同様であったと思います。ちなみに豊岡は全市を122の区に分けて、区長が行政と住民とのパイプ役を担われており、市の防災計画においても「中継役」として位置付けられている。大阪のような都市部でも、こうした役割を担う地域の防災リーダーが必要なのかもしれませんね。

から「バスは出さないのでですか？」という問い合わせをいただいていた。そこで大阪社協さんとも協議し、大阪府共同募金会の配分金をいただいて30、31日の二日間、ボランティアバスを仕立てて市民の皆さんと一緒に豊岡に赴きました。人数としては、市社協さんの京都方面（舞鶴市・宮津市）が43人、私どもが担当した豊岡市が40人。豊岡へは中学生からお年寄りまで、実に多彩な人たちが参加されましたが、男女比というところは同数。比較的20代と50代の方が多かったように思います。が、なかでも体育会系の若者と、「神戸のときも行った」という人が多かったですね。

中学生からお年寄りまで、40人がバスで現地に

.....

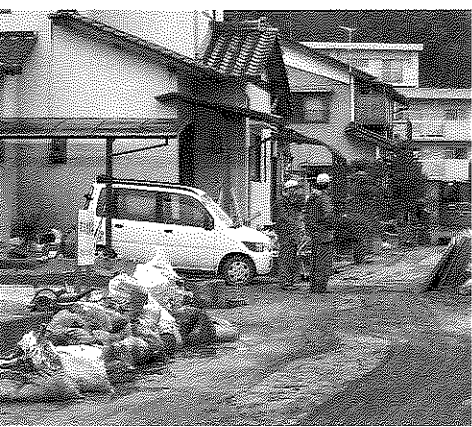
奈良 水害発生直後より、多くの市民

災害ボランティアを考える

て現地の大変さを体験させていたいたわけですが、ニーズ調整の仕事をお手伝いしたなかでも、派遣先の現場で一件のニーズにボランティアがだぶったり、また「朝から待ってるんやけど」と苦情の電話をいただいたり、「明日の朝一番」と約束していたのが実際には「昼から」になってしまったり…。

家の前に積み上げられているゴミ処理も大仕事でしたが、移送ボランティアはいても、軽トラが不足していたてなかなかはかどらなかつたり…。

ボランティアさんが多かったのは、10月30日(土)の1747人、31日(日)は2143人、11月3日(祝)は1166人で、本部が開くのは朝の9時なのに、7時すぎから早くも行列ができていました。土・日には学校や会社の組合など団



大阪府社会福祉協議会
奈良 公美

体で多くの方が来られましたね。そんなとき、それを「捌ける体勢整備」が課題になるわけですが、スムーズに活動にかなげるように、ボランティアさんを「待たせない体制」が必要だと感じました。

それと、ある程度落ち着いてくると、豊岡市の地場産業であるカバン製造会社からも「商品の水洗い」とか「社屋の泥かき」などのニーズが寄せられるようになります。そうしたときに「個人のニーズはどうなっているのか」と心配されるボランティアさんについて、支援活動の「優先順位」を意思統一しておくことも大切です。

それから小さなことも知れませんが、センターには3本の電話があつて、①ボランティアの申込、②ニーズ依頼、③苦情受付…と使い分けていました。けれど混乱する現場では間違つてメモす

ることもあり、このときは「着信履歴が残る携帯電話」を使用していたのが幸いしました。この携帯電話の普及は阪神淡路大震災のときの被災地支援活動と大きな違いで、大変役立ちました。

奈良 先ほど「システムチェックに…」という言葉が出ましたが、地元の行政職員、社協職員も被災者であるわけだから、なかなか思い通りにいかないのは当然なわけですね。そこで塙さんと西原さんが言われていた、私たち応援部隊である社協職員が「自分で仕事をつくる」ことが重要になると思うんですが、実はバスで行った市民ボランティアからも、「ニーズ(票)は出てないけれど、やろう!」という意見もあつて、これらをどう考え、判断していくかは難しいところですね。

塙 私が今回学んだのは、そうしたこ

とも含めて、災害支援の基本的流れや、ニーズ票などのさまざまな書類のフォーマット(ひな形)化、マスコミ対策の方法、受入態勢の構築手順…など、かなりのことは「平時から準備」しておけるのではないかと、ということでした。またそれらは、基本的にマニュアル化できる。ポイントは、それぞれの地域・市町村に見合った「災害支援ボランティアマニュアル」を平時から準備しておくことで、それが迅速な「受入れ体制」の構築にもつながります。

それと、ニーズには「日々変化するニーズ」と「変わらないニーズ」の両方がある、この正確な情報発信が大切だと痛感しました。言い換えれば、応援にあたっては「現地状況」の正確な把握が不可欠。でないとミスマッチは避けられない。

吉岡 東大阪市では平成9年に「災害時支援活動マニュアル」を作成しているんですが、その見直しも早急にする必要性を感じました。

災害現場でのプラットフォームづくり…という発想

奈良 意外に感じたのが、被災住民の

なかには社協やボランティアセンターのことを知らない人も多く、必ずしも歓迎されたばかりではない、という点です。2日めはニーズの訪問調査（御用聞きボランティア）をすることになり2〜3人一組で個別訪問をしました。が、ピンポン！と玄関チャイムを鳴らしても案外、若い夫婦宅では「大丈夫ですから」と敬遠されたりするケースもあったようです。それに比べると、お年寄り宅では喜んでくださるケースが多く、たとえ自宅にニーズがなくても「ウチは大丈夫だけれど隣の何々さんが」と対応される場合が少なくなかったと聞いています。

吉岡 被災者のなかでも、とくに一人暮らしの高齢者には喜んでいただいたようです。高齢でも夫婦でお住まいの方は比較的落ち着いておられたようですが、一人暮らしの方は、防災無線も通じなければ冷蔵庫も使えない。しかしそうした不安感がニーズとして本部にはあがつてこなかった。

奈良 そうです。私たちが行った2日めのニーズ訪問調査では、多くの独居高齢者が（状況把握から）漏れていたことが判明し、この点はやってみてよかったと考えています。

西原 私は逆のケースも聞いているんです。お年寄りは妙に遠慮されるというか、あるいは見ず知らずの人を警戒されるというか。奈良さんが言われ

たように「被災住民に普段から社協やボランティアセンターが知られていなかった」ということかも知れませんが、これは私たち大阪で仕事をしている者も考えておかなければならない点ですよ。

奈良 大阪が参考にするべき点と参考にできない点と両方あると思いますが、ともあれボランティアバスの反省点としては、現地のSOSに即応するためには日頃からバス会社と事前に連携しておく必要性があるのではないかと、といった点や、現地の状況も勘案しながら、どの時点で市民に参加を呼びかけるのがいいのかとか、また効果的なマスコミ対応など、送り込む側の課題がいくつか見えてきたと思っています。

西原 なるほどね。それと私が強く思ったのは、現地では夕方、活動を終えたボランティアに「活動報告書」を書いてもらいますが、このときに一言ふた言でもいいから言葉をかけて、労をねぎらい、活動先の様子を言葉を交わして聞いてみる……といったことが大変



重要であつたのではないかと、ということなんです。参加者には「それなりの満足感」を持って帰っていただかなければ次の活動につながらないわけで、そのためのモチベーション喚起も、我々コーディネーターの重要な仕事ではないかと、今回あらためて感じました。

吉岡 夕方、帰ってきた人への対応については私も感じました、状況にもよりますが、地元のボランティアさんには担当していただくことができだと思います。

西原 そうなんです。災害時の大きなテーマに「災害弱者の支援」がありますが、災害弱者に普段から接しているのは地域でさまざまな活動に取り組んでいるボランティアです。そんな方々が、活動を終えた人たちに「お疲れさま、どうでしたか？」と声をかけ、書類ではなく（被支援者の）様子を参加者から直に聞くことで、より正確な状況把握ができます。

猪俣 災害のとき「助けられるか否か」は日常的に「知っているか否か」だとも言われますよね。日常、さまざまな生き難さを抱えておられる人いろいろな活動で接している地元ボランティアは、いざというとき、災害弱者の強力な支援者で

す。

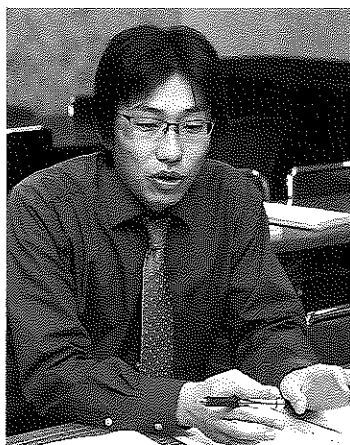
堀 そう。だから一人ひとりが災害支援の専門知識を持っていくなくても、「つなげる」役割を果たしてくれば、これは大きい。

西原 それは言葉を変えれば「災害現場でのプラットフォームづくり」と言えるのかもしれない。

奈良 ということは、普段から災害弱者に接している「小地域ネットワーク活動」などがますます重要になってきます。猪俣さんが言われるように、日常のボランティア活動が災害時にもモノをいう、ということですね。

西原 南海地震、東南海地震の発生が予想されるなか、災害支援ボランティアについては、いくら考えても考えざることはないと思います。

あの阪神・淡路大震災から10年。あらためて「あのとき」に思いをはせて、座談会を終えたいと思います。皆さん、今日はお忙しい中ありがとうございます。



司会
大阪府社会福祉協議会
西原 弘将

災害ボランティアセンター

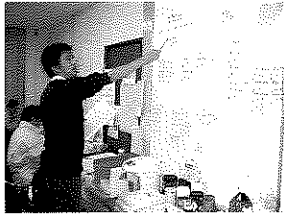
本部長

センター長

総務班

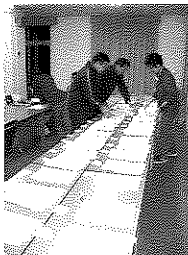


事務所

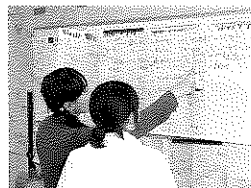


●全体調査 ●問い合わせ対応 ●V保険手続き

ニーズ相談・受付班



●ニーズ受付
●相談対応
●ニーズ掘り起こし
●ニーズ内容確認、
マッチングのための準備
(指示書、地図作成 etc.)



ニーズ依頼
相談
問い合わせ

物資班

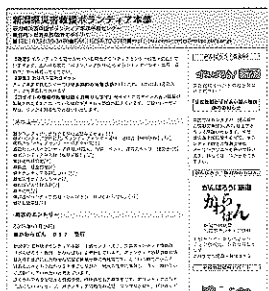
●物資受付
●必要物資の手配、配送
●貸し出し・管理



情報班

被災地外へ

●ホームページの立ち上げ
●情報誌の発行
●社協ネットワークの活用など



被災地へ

●チラシ
●広報車
●新聞等の発行
●口コミ



情報提供

被災地とボランティアを繋ぐ
災害ボランティアセンター
の基本的な仕組み(概略図)

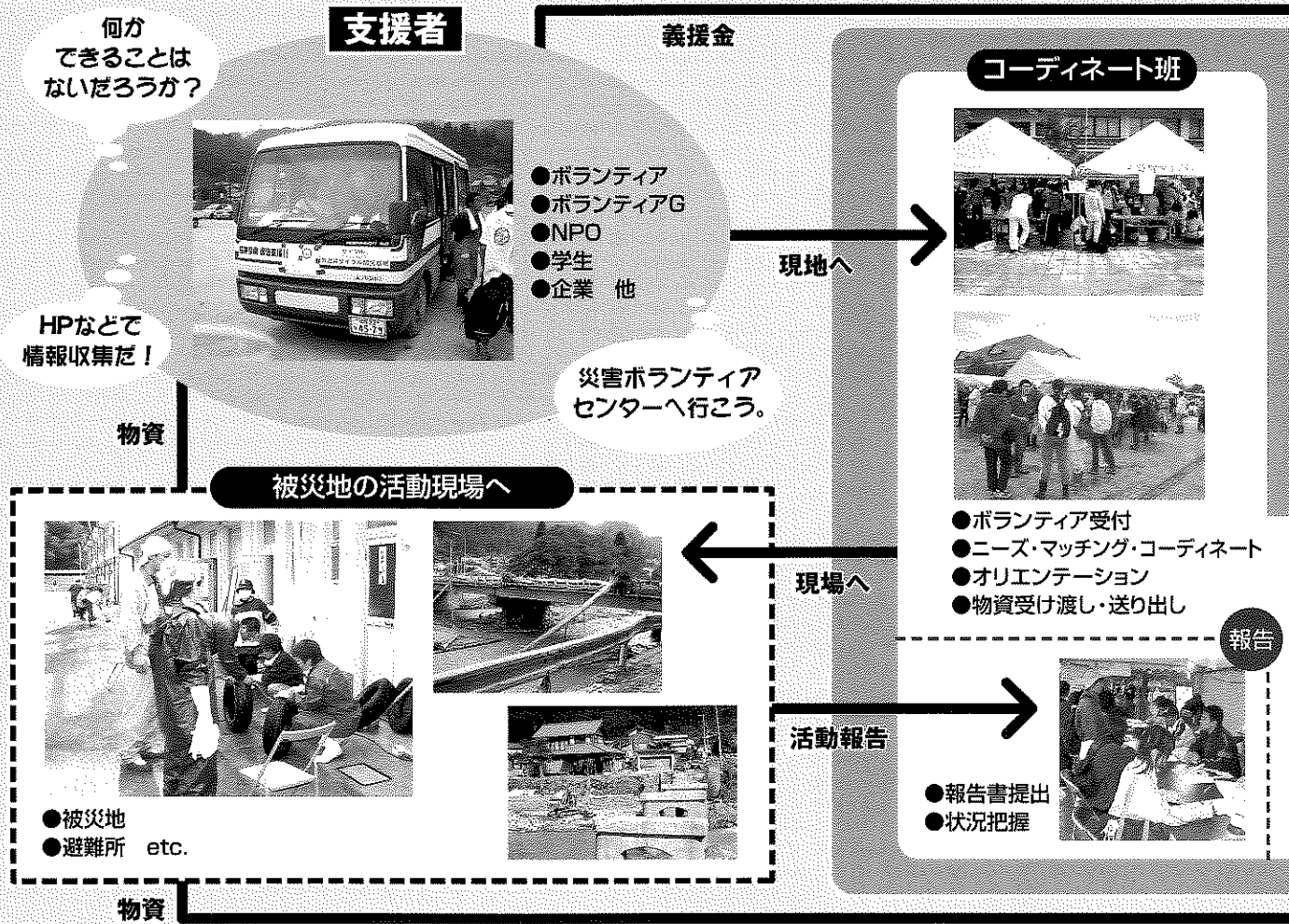
多くの被災地には災害ボランティアセンターが設置され、被災地とボランティアを「繋ぐ」役割を果たしています。そのセンターの基本的な仕組みをわかりやすく紹介します。

一人では
なかなか片付かない。
ボランティアの力を
借りれるかなあ?

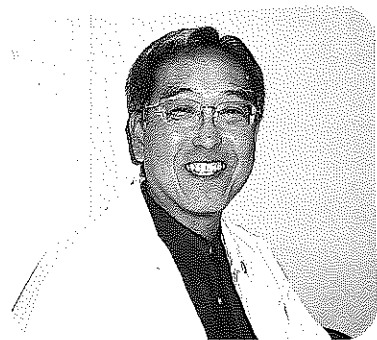
被災地住民



災害ボランティア
センターに
相談してみよう



町なかの随所に設営されていた『ポイント』が、有効に機能していたように思います。



ボランティア・バスで現地に入ったボランティアグループ「べんべん草」の福永忠さん（東大阪市ボランティア連絡会・副会長）

普段、東大阪市で多彩なボランティア活動に取り組んでいる福永忠さん（63歳）は、ボランティア・バスで豊岡市にかけつけた40人のうちの一人。10年前の阪神淡路大震災では「何回も支援に行った」という災害ボランティアの経験者です。

「長靴やカッパ、着替えを何枚も持参しての参加でしたが、現地はやはり大変な状況だった」と語ります。初日は現地到着と同時に、40人が4つの班に分かれて行動。「私たちの班は個人宅での泥かき。家の中はもちろん、庭や溝には腰あたりまで泥がたまっていて、それを手分けして土嚢に詰めていくんです。ふだんスコップなど使ったことのないので、さすがに大阪に戻ってからは体のあちこちが痛くなりました」と苦笑します。

しかし「神戸のときに比べると、現地の受入れ体制はすいぶん整っていた」というのが福永さんの印象です。町なかのどこどこにテントで『ポイント』が設営されていて、湯茶、うがい薬などが用意されていた他、道案内や、そこには手話通訳のできる人がいたり移送ボランティアの中継地になっていたりと「それが有効に機能していたのではないかと語ります。

二日めの午前中は、2、3人に分かれて二日調査。そして午後からは前日同様、全身泥まみれになっての泥かきに参加した人もありました。

感じたのは「災害支援の現場では小グループのリーダーが大きな役割を担う」ということです。「この人たちが的確な指示を出すか否かで成果はまったく違って来る。そしてそれは、普段からの活動で培われるのではないかと福永さん。

大阪では、車椅子介助や障害者スポーツの指導員として多彩なボランティア活動に取り組んでいるだけに、「こうした災害が自分たちの町で起きたなら……」という思いが脳裏を離れなかったのかも知れません。災害支援について、市民の立場からまた「何かを学んだ」二日間であったようです。

新潟中越地震被災地にも全国からボランティア

10月23日に起きた新潟中越地震においても、全国から多数のボランティア・ボランティアコーディネーターが被災地に駆けつけました。

柏原市社協がヘルパーをボランティア派遣

柏原市社会福祉協議会小川利夫会長は、新潟中越地震で壊滅的被害を受けた山古志村民の避難先に、11月17日からホームヘルパーをボランティア派遣しました。

今回の地震で、山古志村の村民約2000人全員は、隣の長岡市の公共施設等に分散して避難生活を余儀なくされました。社協のヘルパーが介護に当たる避難所もその一つで、高齢者福祉センター内にありました。ここは、入浴ができることから高齢の村民150人が避難しており、このうち50人が介護認定を受けていました。入浴介助やトイレ誘導、夜間の徘徊見守りなど24時間体制での介護が必要で、介護専門職が不足していました。

市社協では、11月に入って地震被災地に救済物資等の打診をしていたところ、山古志村社協から介護ボランティア派遣の支援要請があり、3週間程度の予定で2〜3名のヘルパーを交替で派遣することになったもの。17日午後、車で現地入りした3名のヘルパーは、さっそく同福祉センターに泊まり込みで、日勤、夜勤のローテーションを組んで、他府県からのヘルパー数名と介護にあたりました。

山古志村災害対策本部でボランティア登録した際、小川藤雄同村社協事務局長は、「10月24日から全村民が避難生活しており、心身ともに疲れている。帰る見込みも立たず、茫然自失の状態ですが、全国からの励ましが支えです」と話していました。本格的な冬が到来する中越での介護ボランティア活動は、仮設住宅への移転が始まる12月初旬まで続きました。

柏原市社会福祉協議会

川口町発新ボランティア事情！

「被災された方に、少しでも出来ることを」と、全国から日々8000人を超えるボランティアが、ここ川口町災害ボランティアセンターに集まりました。受付には長蛇の列。小さな思いが集まり、被災された皆さんの大きな心の支えになったと思います。そんな中、現場では過去から同じような光景を目にしましたが、改めて必要とされる形のボランティア活動が私の目に留まりましたのでご紹介したいと思います。

今回の大震災で最大震度7を計測した新潟県北魚沼郡川口町は、新潟県でも山間部の豪雪地にある人口6千人弱の小さな町です。越後川口駅や町役場周辺にもコンビニエンスストアは1店舗（当然、地震直後は閉店してました）しかありませんでした。自前での食糧が基本のボランティアも、長期に渡るとどうしても現地調達が必要でした。しかし、ここ川口町ではそれもままならないのが現状でした。そこで、長期に渡り活動しているボランティアが集まり、当番を決め、食事を作ることとなりました。これがボランティアの為にボランティア（2次ボランティア）という形態を確立化したと思います。

調理師の資格を持ち、この当番の中心的役割を果たしていたC君は私に言います。「本当は、被災された方々の家を一軒ずつ自分の足で廻り、出来ることをしたい。でも、俺は今、ここで活動してくれているボランティアの為に食事を作り、元気を付けて、その元気を被災者の皆さんに分けてあげてくれることが、一番の喜びだ」と。この言葉に象徴されるように、その活動がたとえボランティアのため



であっても、被災者の方々に繋がっている立派なボランティア活動だと改めて感じました。「被災された方に」と集まったボランティアの方々の中にはこの2次ボランティアに配属され、戸惑いや矛盾を感じられた方も多々います。また、ボランティアの為に炊き出しに要する食材や物資等、2次ボランティアに関しては様々な考え方があり、今後そのあり方について課題等を明確にしながら、再度検討を重ねていく必要があるでしょう。

現場にいくと、「活動しているボランティアさんのために炊き出しに来ました」という声や、「ボランティアの皆さんに」という救済物資も増えつつあります。このような現状も考慮した「災害ボランティアセンターマニュアル」を早期に作成し、次の災害時に生かされなければなりません。最後に、私個人としては、「震災」という長期に渡り援助活動が必要な「災害ボランティアセンター」という現場を維持していく上で、食事だけにとらわれず、ボランティアの為にボランティアは必要不可欠なものではないかと感じています。また、今後、現場で活躍したいと考えてくださる方には、「2次ボランティアも立派なボランティアであり、その気持ちは必ず被災者に届きます」と、メッセージを託したいと思います。

大阪狭山市社協 松井康祐

新潟中越地震被災地に義援金、ボランティア活動基金を！

新潟中越地震関連の義援金、ボランティア活動基金の振込み先、問い合わせは下記の通りです。

義援金

名義・新潟県災害対策本部
①第4銀行県庁支店（普）1262027
②郵便局（普）00510-8-725

ボランティア活動基金

口座名「新潟県中越地震ボランティア活動基金」
第4銀行白山支店（普）1587567

●最新の情報は新潟県災害救援ボランティア本部へ TEL 0258-30-3460 <http://www.nponiigata.jp/jishin/>

災害・ボランティア・ネットワーク

泉州ブロックの社協が共同で 活動おこしサポート講座（1月～2月）

台風や地震が相次いだ2004年。そこで昨年より泉州ブロック社協では災害時のボランティア活動について議論を進めてきましたが、この1月から2月にかけて、表記の連続講座を開催することになりました。「災害」「ボランティア」「ネットワーク」をキーワードにしたこの講座に、ぜひご参加ください。

①1月29日（土）13:00～16:00

公開フォーラム

●講演「災害時にいきるボランティア活動について」

大阪大学大学院助教授 渥美 公秀 氏

●パネルディスカッション「被災地発／コミュニティの底力」

日野ボランティアネットワーク若者支援地域づくり事業 アドバイザー 山下 弘彦 氏
兵庫県北淡町社会福祉協議会 風 保憲 氏
大阪府社会福祉協議会 主事 西原 弘将 氏

②2月1日（火）13:00～16:00

●「市民活動とは?」「ネットワーキングとは?」

基本的な概念について学び、グループに分かれてワークショップを行います。

③2月8日（火）13:00～16:00

●グループワークによる演習

災害時の困りごとを想定し、自分たちでできることを考え、プログラムをつくります。

④2月15日（火）13:00～16:00

●グループ発表と振り返り

引き続きグループワークと、今後の実現可能性を探ります。

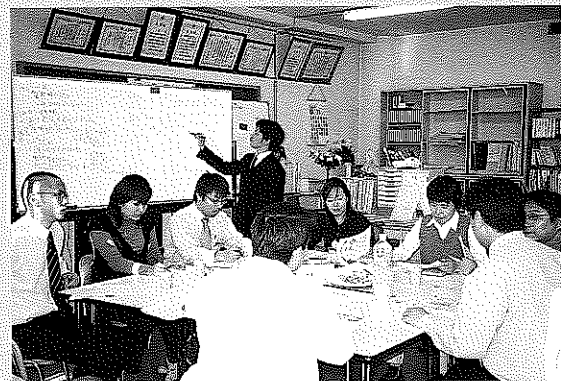
会場 岸和田市立福祉総合センター

主催 市民活動プロデューサー養成講座実行委員会
(堺市以南泉州ブロック内社協)

①の公開フォーラムのみ…無料

(先着順・定員180名になり次第締め切ります)

①～④の全日参加…参加費500円（定員50名）



実行委員会の打ち合わせ会議

申し込みと問い合わせ

岸和田市ボランティアセンター

TEL 0724-30-3366 FAX 0724-30-3367

大阪府から、

「災害時活動ボランティア」登録のお願い

阪神・淡路大震災が起こった平成7年は、ボランティアの顕著な活躍から「ボランティア元年」とも称されました。また、昨年は新潟県中越地震や、日本各地で大きな被害がみられた台風による水害などで、あらためてボランティアの重要性がクローズアップされた年となりました。

大阪府では、府域で災害が発生した場合にボランティアが円滑に活動できる環境を整えるため、大阪府社会福祉協議会などと携え、平成9年に「災害時におけるボランティア活動支援制度」を発足させ、以来、ボランティアとして活動していただける方々の募集・登録をしています。

平常時に募集している「事前登録」は、5名以上の団体を対象としており、万が一の災害に備えて予めボランティアを登録しておくものです。

災害に遭って困っておられる人々のために、あなたのお力を貸していただけませんか？

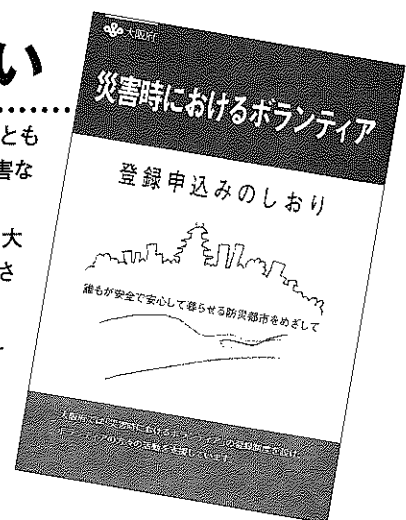
登録申込書は、大阪府及び府内各市町村防災担当課にてお渡ししております。

なお、この制度の詳しい内容については、

大阪府危機管理室消防救助課（代表06-6931-0351：内線4874）

までお問い合わせください。

皆様のご協力をお待ちしています。



【主な活動内容】 ○被災者に対する給食・給水支援 ○救助物資の仕分け・配布 ○高齢者・障害者などの要援護者への援助
○外国人に対する支援 ○その他被災者に対する支援活動



北摂

広めよう 深めよう ボランティア活動

吹田市

吹田市ボランティア連絡会には高齢者施設・福祉施設、精神保健福祉、青少年、音訳、点訳、手話など31団体が参画。ボランティアのスキルアップにと研修会・講座・他市との交流会を開催しています。

また市民に幅広くボランティア活動の理解と関心を深めてもらうために、リーフレットを作成配布し、PR・啓発活動を行っており、その一環として体験参加講座受講者にフォローアップ講座を行って、ボランティアの増員に取り組みながら、さらに新たな活動やグループの立ち上げを支援しています。

また、ボランティア情報紙

の発行、ボランティア相談（月曜・金曜）、精神保健福祉ボランティア講座、市内の小・中学校への出前講座など、センターの取り組み事業には積極的に協力参加。点訳ボランティアと目の不自由な方々と元盲導犬と一緒に学校で点字の指導や当事者の体験談、そして元盲導犬、当事者とのふれあいのできる出前講座は児童たちにとって本当によい体験授業だと喜ばれています。精神保健福祉ボランティア講座は民生委員、福祉委員も受講されて、自治会・ボランティアが協力し、当事者

河北

震災の研修に行ってきた

四條畷市

を受け入れ見守り、支援する地域もでき、講座の成果が出はじめています。

そして今後は、高齢者自身にもできる傾聴ボランティア講座や拡大写真本のような実技講座など、活動分野別の講座をセンターとともに取り組んでいきたいと思っています。

私たちボランティアは地域福祉活動の担い手でもあります。「障害のあるなしにかかわらず、住み慣れた地域で安心して人として豊かに暮らせるまちづくり」をめざしている吹田社協の地域福祉活動計画との連動をもふまえた活動が、持続できることを願っています。

四條畷市ボランティア連絡会（以下「連絡会」）では、地震などの災害

に関する研修と各グループ間の交流を目的として、平成16年9月に「阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター」（神戸市）に行ってきました。

今年には阪神大震災から10年という節目の年でもあり、夏には福井県で台風の被害もあったので、みなさんの災害に対する関心も高いようでした。

当日は各グループから総勢56名が参加して大型バスに乗り出発しました。

まず、館内に入ってシアターを見ましたが、建物の壊れる様子や轟音が響き渡り地震の疑似体験をする中で、改めて災害時の怖さを思い出した人もいました。

展示部門では様々な写真や破壊さ

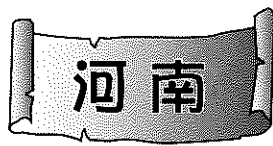
れた展示物などがあり、震災時に現地に応援に行った人は改めて当時の状況を思い出しながら話をしています。

午後は神戸市立フルーツフラワーパークに行き、昼食と他グループの人との交流を行いました。温泉に入ったり人買い物をする人など、日頃関わりがない人との交流も行うことができ、お土産、お花、植木、果物などを手に持ち、帰りのバスに乗り込みました。

震災に対する問題を改めて考えることができ、他グループの人との交流も行い大変有意義な一日となりました。

連絡会では、近畿地方の水害や新

柏原市ボランティア連絡会では、平成16年9月4日（土）、「第五回 どんな！こんな！ボランティア展」を開催しました。この「ボランティア展」はボランティア会員相互の理解と、日頃それぞれの場所で活動している各グループが、その活動内容を披露すること、さらに親睦を深めることを目的



ボランティア展開催

柏原市

として実施しています。

私たちのボランティア展は費用を掛けずに行うことをモットーに、そして成功させるためお互いに協力してPR用チラシからポスター、ノボリ、看板などすべてを手作りで行いました。

会場ホールの設営準備は前日に、



ループに募金の呼びかけを行いました。その結果72,532円の募金が集まり、新潟県や兵庫県豊岡市などに災害義援金として送りました。被災地（豊岡市）にボランティアと

して行った人もおり、多くの募金の協力もあり、今後も被災された地域には、連絡会として協力をしていきたいと思っています。

研修会参加者の声

- ①「シアターや復興までの様子を見て恐ろしさ、無惨さを思い出しました。防災意識を風化させないようになりたいです」
- ②「地震発生時の映像を見て、戦争（第二次世界大戦）の時の体験を思い出し恐怖に足がすくみました。常に1・17の心構えができていくかと自分に問いかけました」
- ③「忘れることのできない日のはずが、いつか遠い日となってしまっていた」



展示ブースは当日各グループが準備し、調理グループはボランティア会員約250食のお弁当作りに奮闘しました。

特別講演にはNHKの土曜日朝のTV番組「ウィークエンド関西」やスポーツキャスターとして活躍中の藤井彩子アナウンサーをお迎えしました。この日も朝の放送を終えて駆けつけてくださいました。

テーマは「放送の現場から」。取材体験や放送を通していろいろな楽しいお話を頂きました。まず、入局初任地がNHK島根放送局、その島根県の過疎地での見守りネットワーク立ち上げボランティア取材のお話、スポーツを通してのお話、昨年は8月に行われましたアテネオリンピックで体操選手の手金メダル獲得で体操日本復活や金メダル獲得が確実と言われていた柔道の井上康生選手のお話、最後はご本人をモデルにした大阪大学で開発中のロボットのお話



話など約40分にわたってお話をして頂きました。

1階フロアでは展示コーナーとして介護用品や手芸用品、自助具などを、それぞれのグループによる展示や絵本の読み聞かせ、3階の交流ホールでは日頃ふれあいサロンや老人ホームなどを訪れて楽しんで頂いている踊り、歌、楽器演奏を中心に披露。ホールロビーではお茶席、ボランティア作業室では自然木工細工教室、講座室では喫茶コーナーとバラエティーに富んだとても愉快的楽しいボランティア展となりました。

このボランティア展にはボランティア会員をはじめ一般の方の来場者も多くあり、親睦と友好の輪が広がりました。

泉州

泉州ブロック交流会に参加して

高石市



大阪府市町村ボランティア連絡会
泉州ブロック交流会



最初に南海福祉専門学校の専任講師水流通二先生の「ボランティア活動を楽しく続けるために」の講演から始まり、ユーモアたっぷりの言葉や動作を交えての話術に、引き込まれるように聞き入りました。中でも私自身のことをどれだけ表現・分析できるかという問いに、自分のことを解っているようで解っていないかったことを思い知らされたこと。次に好感が持てる人はどんな人かという問いでは、私自身を他人から見ての第一印象を、お互いに判断したりされたり。ゲーム感覚の中で自分を引き出し、見つけ出す喜びを味わいながら、これからの社会生活を送る上で、人間と人間の関係を抜きにしては語れないことを強調していただきたいと思います。

その後、各市町の代表者から参加者の紹介をしながら、熱のこもった活動の近況報告があり、時間通りに終了することができました。

11月27日(土)に南海高石駅前のたかいし市民文化会館アプラホール会議室において、大阪府市町村ボランティア連絡会泉州ブロック交流会が開催されました。

高石市ボランティア連絡会としては、会館内が迷路のようで案内なしでは会議室までたどりつくのに大変だからと、早くから当連絡会の方にそれぞれの場所に配置してもらい、難なく時間通り開催することができました。

動を楽しく続けるために」の講演から始まり、ユーモアたっぷりの言葉や動作を交えての話術に、引き込まれるように聞き入りました。中でも私自身のことをどれだけ表現・分析できるかという問いに、自分のことを解っているようで解っていないかったことを思い知らされたこと。次に好感が持てる人はどんな人かという問いでは、私自身を他人から見ての第一印象を、お互いに判断したりされたり。ゲーム感覚の中で自分を引き出し、見つけ出す喜びを味わいながら、これからの社会生活を送る上で、人間と人間の関係を抜きにしては語れないことを強調していただきたいと思います。

情報コーナー

精神保健啓発フォーラム・泉州ブロックボランティア交流会

精神障害のある方や悩みを抱えている方のことを正しく理解し、私たちそして地域全体でどう支えあっていくか、皆さんと一緒に考えていくフォーラムです。

日時 平成17年1月30日(日) 13時から17時

場所 阪南市立文化センター(サラダホール)

参加費 無料(定員750人)

問合せ 泉南市社協
TEL 0724(863) 0294

ボランティア活動セミナー&体験ボランティア参加者大募集!

学生でボランティア経験のない方を対象に行い、セミナー受講後に体験ボランティアができる日を設定しています。

①セミナー
日時 平成17年2月10日(木) 10時~16時
場所 大阪NPOプラザ(地下鉄・阪神)野田 徒歩5分

②体験ボランティア
子どもと一緒に世界の遊びやピクニックなどを行い、子どもたちが楽しみや喜びを感じ

献血ボランティア募集

街頭等での献血会場における献血よびかけをお願いします。

日時 活動日は相談のうえ随時、10時~16時30分(短縮可)

場所 大阪市内での街頭等の献血会場

費用 交通費のみ2000円まで支給

問合せ 大阪府赤十字血液センター
TEL 06(69962) 7654
(担当 渉外課 片岡)

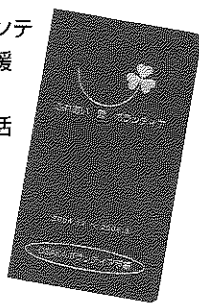
活動予定が3年間分(2004年12月~2008年3月)

記入を要!

ボランティア手帳発行!

大阪府内のボランティアセンター、支援団体の連絡先を網羅。ボランティア活動に役立つ情報満載!

日常のボランティア活動を協力をバックアップします。是非みなさまの活動にお役立て下さい! 1冊150円(税込)(この手帳は一部ヤクルト基金の助成をいただき作成しています)



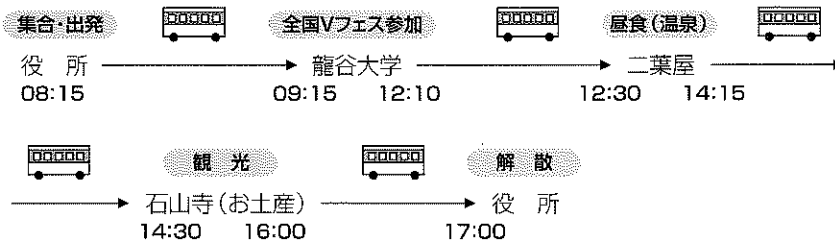
申込先
大阪府ボランティア・市民活動センター
ボランティア手帳係まで
TEL 06-6762-9631
FAX 06-6762-9679

第13回全国ボランティアフェスティバルびわこ

〈摂津市ボランティア連絡協議会〉

秋のバスツアー研修

行程 ※単独行動はしないで、時間厳守をお願いします。



秋のバスツアー研修
として48名が参加
摂津市ボランティア連絡協議会

☆9月26日（日）大津ブロック会場に参加

摂津市ボランティア連絡協議会では、毎年「秋のバスツアー研修」を行なっています。今年度は役員改正に伴い5月に新しくメンバーが変わったばかりで、前期「北摂津ブロック交流会」を開催しました。新役員の勢いで7月に開催し終えたものの、まだ役員同士のコミュニケーションも取れていないという状況。そんな折に、全国ボランティアフェスティバルが今回「滋賀県」で開催されることを知り、「秋のバスツアー研修」は、全国ボランティアフェスティバル参加し、会員相互間の交流と研修を重視したいと計画しました。



障害者の人も、そうでない人も共に心のキャッチボールの出来る人に...

手紙のやり取りが、心をつなぐ。障害のある人も、ない人も、みんな笑顔で交流。ボランティアの活動は、地域を元気にする。みんなが笑顔で交流。ボランティアの活動は、地域を元気にする。みんなが笑顔で交流。ボランティアの活動は、地域を元気にする。



【楽しい、ひと時でした】

龍谷大学全国ボランティアフェスティバル。みんな笑顔で交流。ボランティアの活動は、地域を元気にする。みんなが笑顔で交流。ボランティアの活動は、地域を元気にする。みんなが笑顔で交流。ボランティアの活動は、地域を元気にする。

みんな笑顔で交流。ボランティアの活動は、地域を元気にする。みんなが笑顔で交流。ボランティアの活動は、地域を元気にする。みんなが笑顔で交流。ボランティアの活動は、地域を元気にする。みんなが笑顔で交流。ボランティアの活動は、地域を元気にする。

ボランティア・市民活動保険のごあんない

取扱保険会社：三井住友海上火災保険株式会社

ボランティア活動中の事故に備えて ボランティア保険				
補償内容		ボランティアがボランティア活動中に、①偶然な事故によってケガをした場合の「傷害保険」、②第三者の身体や財物に損害を与えた場合の「賠償責任保険」、③ボランティア活動中に死亡し、「傷害保険」の給付対象にならない場合の「死亡見舞金」の3つの制度がセットされています。		
補償金額	損害部分	本人のケガ ボランティア	Bプラン	Cプラン（天災担保）
			死亡・後遺障害 2,445.6万円	死亡・後遺障害 1,102.4万円
			入院（1日あたり）8,700円	入院（1日あたり）5,900円
			通院（1日あたり）5,600円	通院（1日あたり）3,800円
			手術保険金／入院保険金日額に手術の種類に応じた倍率を乗じた額	
	特定感染症	補償します	補償します	
	天災	×	補償します	
	賠償部分	対人	対人、対物共通 最高 4億円	
対物		対人、対物共通 最高 4億円		
見舞金	死亡	本人の死亡 30万円	死亡 30万円	
掛金	ボランティア1名 年間（中途加入でも同じ）			
	500円		700円	
加入できる人や対象となる活動		・無償であること（交通費、食事代など除く） ・自助活動ではないこと ・活動のための会議や、往復途上も含む		
保険有効期間		毎年4月1日から翌年3月31日まで （中途加入の場合は受付日の翌日から）		

各種イベント参加者の補償に ボランティア・市民活動行事保険									
補償内容		ボランティア団体や各種の市民団体が主催する行事の参加中に、①参加者が偶然な事故によってケガをした場合の「傷害保険」と②主催者または参加者が第三者の身体や財物に損害を与えた場合の「賠償責任保険」の2つの制度がセットされています。							
補償金額	損害部分	本人のケガ参加者	Ⅰ型（宿泊なし）		Ⅱ型（宿泊あり）				
			死亡		500万円				
			後遺障害		15～500万円				
			入院（1日あたり）		3,000円				
			通院（1日あたり）		2,000円				
	手術保険金／入院保険金日額に手術の種類に応じた倍率を乗じた額								
	賠償部分	対人	1名あたり 最高1億円 1事故あたり 最高2億円						
対物		1事故あたり 最高500万円							
見舞金	死亡	本人の死亡							
掛金			Ⅰ型		Ⅱ型				
	A区分	30円	1泊2日	248円	4泊5日	328円			
	B区分	128円	2泊3日	256円	5泊6日	336円			
	C区分	251円	3泊4日	264円	6泊7日	344円			
加入できる人や対象となる活動			ボランティア団体や市民団体が主催する行事 （スポーツ活動や自助活動も含む）						
保険有効期間			行事期間中 （開催1週間前までに受付が必要）						

各種NPO団体等の活動に 非営利・有償活動団体保険						
補償内容		ボランティア保険の対象外で、有償活動を行う団体が活動中に、①スタッフが偶然な事故によってケガをした場合の「傷害保険」と②利用者などの身体や財物に損害を与えた場合の「賠償責任保険」がセットされています。				
補償金額	損害部分	参加者 本人のケガ	Aプラン	Bプラン		
			死亡	202万円	死亡	500万円
			後遺障害	6～202万円	後遺障害	15～500万円
			入院（1日あたり）	3,000円		
			通院（1日あたり）	2,000円		
		手術保険金／入院保険金日額に手術の種類に応じた倍率を乗じた額				
	賠償部分	対人	1名あたり 1事故あたり	1億円 2億円		
対物		500万円				
見舞金	死亡	本人の死亡				
掛金	Aプラン		Bプラン			
	4,900円		6,300円			
加入できる人や対象となる活動		営利目的ではないか利用者から実費を超える報酬を得ている活動、団体				
保険有効期間		毎年4月1日から翌年4月1日まで (中途加入者は翌月15日～)				

		移送サービス活動に				
		移送中事故傷害保険				
補償内容		移送サービス事業の活動中に、車輛に搭乗中の加入者や利用者がケガをした場合、実施主体の責任の有無に関係なく補償します。				
補償金額	損害部分	本人のケガ参加者	I 型（車輛特定）	II 型（車輛不特定）		
			死亡	266.1万円	死亡	192.4万円
			後遺障害	7.9～266.1万円	後遺障害	5.7～192.4万円
			入院（1日あたり）	3,000円		
			通院（1日あたり）	2,000円		
		手術保険金／入院保険金日額に手術の種類に応じた倍率を乗じた額				
	賠償部分	対人				
		対物				
	見舞金	死亡	本人の死亡			
	掛金	I 型		II 型		
2,000円 （車定員1名あたり）		2,000円 （記名利用者1名あたり）				
加入できる人や対象となる活動		移送サービスを実施するサービス実施主体の運転者、同乗のスタッフがその利用者				
保険有効期間		毎年4月1日から翌年4月1日まで （中途加入者は翌月15日～）				

市町村の社会福祉協議会へ保険料とともに申し込みください



三井住友海上火災保険株式会社

ホームページ www.ms-ins.com カスタマーセンター ☎ 0120-63-2277

携帯電話・PHSからはTEL.03-3615-3111 受付時間 平日9:15～20:00 土日祝日9:15～17:00

各種損害保険・生命保険取扱 島本保険事務所

〒541-0056 大阪市中央区久太郎町4丁目1番3号
大阪センタービル2階（伊藤忠ビル）

TEL.06-6252-4520 FAX.06-6245-4686